

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'97

6

月号【1日発行】

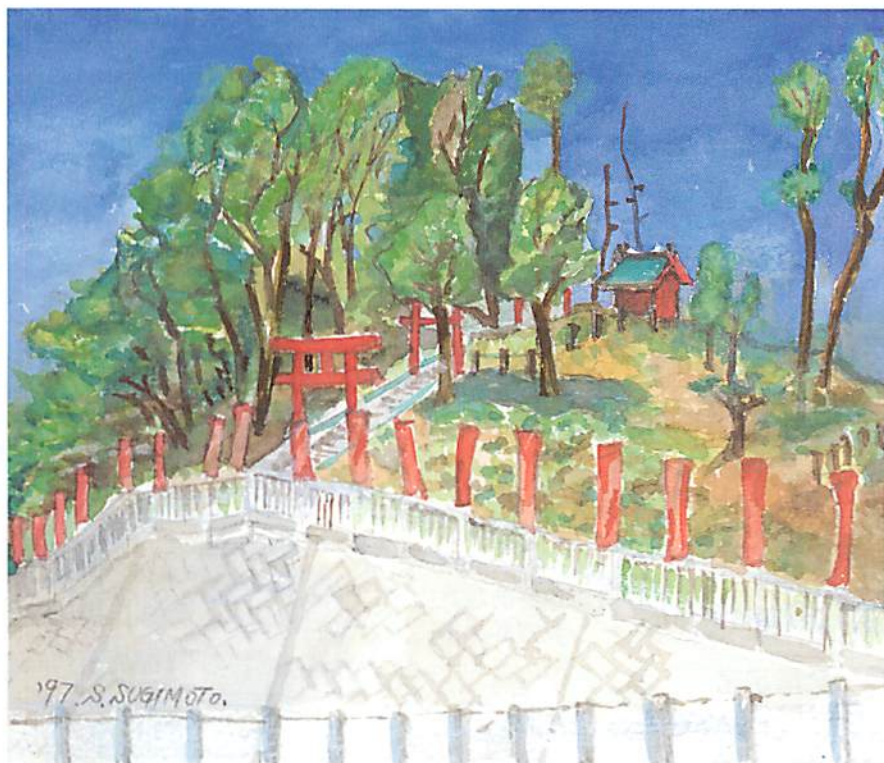


いまを話す

差別、いじめと戦う牧師

関田 寛雄 さん

なぜ低下した日本人のモラル
根は、あいまいな戦争責任



小誌スタッフへ18人が応募、独自のテスト

次号予告

高橋市長「いまを話す」に6年ぶり
「教師のIQは中程度がいい」

●サマーキャンプの参加者募集

3

■ほんねインタビュー いまを話す

4

差別、いじめと戦う牧師 関田 寛雄 さん

なぜ低下した日本人のモラル

「根は、あいまいな戦争責任」

□小誌スタッフの応募者は18人

9

独創的な面接・文章力テスト

■はりきってます グループ紹介

10

小説の世界に浸って11年

こもれび (多摩区)

明るく元気に卓球楽しむ

リリース (麻生区)

◆学習・文化情報

12

●さらに使いこなすワープロ講座の受講生募集

13

□ミニニュース／編集後記

裏表紙

◇表紙絵：多摩丘陵に抱かれた根岸稲荷——杉本 繁さん

(小誌は再生紙を使用しています)

鮫島有美子 (ソプラノ)

「あの頃のうた」コンサート

9月19日(金)午後6時30分開演

市教育文化会館ホール

(川崎駅から徒歩15分、バスあり)

ヘルムート・ドイチュ (ピアノ)

ヴィルトゥオーゾ カンマーアンサンブル・ジャパン

〈曲目〉この道／赤とんぼ／わすれな草をあなたに／
夢路より／黒い瞳／ウイーン我が夢の街 ほか

全指定席

S席3,500円/A席3,000円

6月19日(木)
10時前売り開始〈チケット〉 (財)市文化財団／(財)市生涯学習振興事業団／市教育文化会館／各市民館
〈発売場所〉 北野書店／川崎音協／チケットぴあ／チケットセゾン●問い合わせは、 ☎ (222) 8821 の(財)川崎市文化財団
主催＝市文化財団、川崎市／共催＝市教委、市生涯学習振興事業団

ふれあいサマーキャンプの参加者募集

自然の中での発見探そう！

この夏も「ふれあいサマーキャンプ」を下記の通り行います。小中学生のみなさんの参加をお待ちします。

この“体験学習”は、当事業団が川崎っ子のために開くもので、豊かな自然に育まれた農村、漁村でホームステイをして、その地方の伝統文化や産業を体験し、地元の小中学生とも交流、夏休みの楽しい思い出づくりをするために行います。

5コースのまち・おらは、川崎市と友好関係にあり、毎年好評です。定員を超えたときは、抽選になります。ご了承ください。



宮崎のきれいな海で“獲物”を探す川崎っ子(昨夏写す)

コース名	実施期間	対象定員	おもな内容、交通手段	参加費
北海道 中標津町	8月22日(金) ～26日(火) 4泊5日	小学5年 ～中学2 年 40人	ファームステイで、酪農や農作業を体験。乗馬での新しい発見も。往復航空機	小学生4万4千円 中学生6万円
岩手県 東和町	7月25日(金) ～28日(月) 3泊4日	小学5、 6年 80人	空気がおいしい町でのホームステイ。さき織りなどを体験、素朴な生活のよさを。往復新幹線	2万6千円
長野県 富士見町	8月6日(水) ～11日(月) 5泊6日	小学5年 ～中学2 年 50人	高原で草花に触れるハイキング。夜空に輝く大きな星の観測にドキドキ。往復貸し切りバス	小学生2万2千円 中学生2万2千円
宮崎県A ①日向市 ②門川町 ③北浦町	7月28日(月) ～8月2日 (土) 5泊6日	小学5年 ～中学2 年 80人	しおの香りただよう地引き網漁にワクワク。海の生活を生かした知恵にビックリ。ホンモノの海洋知識にウキウキ。往復フェリー	①小学3万円、中学3万7千円②小学2万8千円、中学3万5千円③小学3万2千円、中学3万9千円
宮崎県B 東郷町 南郷村 西郷村他	7月28日(月) ～8月2日 (土) 5泊6日	小学5、 6年 80人	ゆったりした船旅で都会を忘れよう。木工作を体験した君はプロ級の腕？。透き通る川での魚つりは時間も忘れて夢中。往復フェリー	2万8千円

☆申し込みは、6月2日(月)～19日(木)9～17時 ☎(533)4461か ☎(541)2038の当事業団青少年活動事業室▽☎(952)5000の当事業団本部へ電話で申し込む(土・日曜休み)

いまを話す

ゲスト

差別、いじめと戦う牧師

関田 寛雄 さん

Vol. 55

なぜ低下した日本人のモラル
根は、あいまいな戦争責任

温厚な人柄である。戦うヒューマニストでもある。関田寛雄さんは、「抑圧された人たちと一緒に、その解放のために闘うことが出来るかどうか、宗教の真理性を問うもので、教義の違いを論ずることではない」と静かに断言。日本キリスト教団川崎戸手教会の協力牧師であり、最近まで青山学院大教授であった。大学で神学の学的研究をしていたころ、在日韓国人親子を助けたことを契機に、民族差別やいじめに深くかかわる。いま、日本人のモラルの低下を戦後の歴史観に求める声が浮上。だが、関田さんは「戦後、モラル再生のきっかけを逸したのは、戦争の最高責任者が人格的・道徳的責任を取らなかつたからだ」と話す。インタビューは椎野和枝さん。

——川崎・幸の両区には、在日韓国・朝鮮の方が多く住んでいます。関田先生は現在お住まいの幸区と桜本（川崎区）に四十年以上住んでいます。在日韓国・朝鮮の方との、出会いについてお聞かせいただけますか。

関田さん 私、私が神学校を卒業して、桜本で牧師になって間もないころ、夜中に在日韓国人の親子連れが助けを求めて来ました。アボジ（韓国語のお父さん）が勤務先の会社で、日本人と喧嘩になり、「国に帰れ」と侮蔑的なことを言

われたのです。

——「家に帰れ」ではなく「国に帰れ」ですか（ため息）。

関田さん ええ。アボジが帰宅して酒を飲み出し、包丁を振り回して暴れたので、子供たちがけがをするといけないと逃げて来たのです。そのとき、私、しみじみと思ったんです。教会づくりをするということとは、駆け込み寺の役割もなければと。

——（うなずく）。

関田さん 当時、私は青山学院大学の研究室に残り、神学科の助手をしていました。現場の問題を担うことと、アカデミックな研究との板挟みになりました。やがて、こういう現場の問題を担う学問でなければ、本当の学問といえないと思い、二足のわらじで今日までやってきました。

——その姿勢は、今日まで変わっていませんが、先生がそのような考えることができたのは、なぜだと思われませんか。

関田さん 私は、敗戦のとき十七歳の一九二八年の生まれです。当時の教育の影響で軍国主義少年でした。「大東亜戦争は、西欧植民地主義からアジアを解放する戦



「共生」とは？

「日本人と同じように」ではなく
異文化、生活習慣認める

「共生」と教えられてきました。日本軍が、アジアの国々でどんなことをしてきたか、全く知らされずに……。

——「鬼畜米英との聖戦」を信じさせられて……。

関田さん 朝鮮人に出会って、その認識の違いに愕然とし、意識の変革を迫られたのです。そして七〇年ごろ、日立電機が国籍を理由に韓国の青年を就職させなかった。「日立就職差別裁判」があり、教会が活動の拠点になって、四年後に完全勝利しました。こういうこともあって、桜本では民族の自覚が非常に高まりました。

もう泣き寝入りはしないと。関田さん そのとき、一緒に開いた李仁夏さんが始められた桜本保育園は、韓国・朝鮮の子供たちと日本の子供たちが、それぞれの国の風習とか文化、言葉などを尊重しあっています。韓国・朝鮮の子供たちは、本名を使っています。

李仁夏元牧師さんは、以前「いまを話す」に登場されましたが、関田先生とご一緒に在日韓国・朝鮮人と日本人との共生を目指し、ふれあい教育を実践されていますね。

関田さん 李仁夏さんがお始めになった運動は、オモニたち（韓国語のお母さん）の民族意識を高めました。当時、民族の違いによるいじめが続発し、たまりかねたオモニたちが川崎市教委に訴え出たのです。最初、教育委員会は差別を認めなかった。このため、話し合いは十数回におよびました。

——教育委員会の主張は？

関田さん 先生方は「日本人と同じように教育している」と主張なさる。オモニたちは「日本人と同じようにやっていることが、実は差別なのだ」と話す。つまり、それぞれの民族が持つ文化や伝統的な食生活、住生活といった特性を無視して「日本人と同じように」ということが、現実には民族性を奪い去り差別になるのです。オモニたちは、それぞれの民族の違いを認め「共に生きる」との教



育方針を出して、と訴えたのです。

——オモニたちの気持ち、理解できます。

関田さん 交渉の中で緊張が高まったとき、李仁夏さんが「先生方は、在日韓国・朝鮮人の教育について、これを恩恵とお考えですか。権利とお考えですか」と質問されました。室内がシーンと静まり、「人類には自然法というのがあ

関田 寛雄 さん

せきた・ひろお=1928年8月、北九州市小倉にキリスト教会牧師の四男として生まれる。青山学院大学卒業後、米国留学を経て同大学教員。今年3月、定年退職。54年、日本キリスト教団伝道師。55年から、川崎区桜本に開拓伝道に入り桜本教会を設立。76年、幸区に川崎手教会を設立。96年3月、同教会を辞任し同教会協力牧師と神奈川教区巡回牧師に。現在、青丘社理事・後援会長、こども文化センターふれあい館運営委員、幸文化センター運営審議会委員。

ります。子供の教育は権利であって、だからからか与えられる恩恵ではありません。そこを先生方がわかまえていただきたい。われわれ（在日韓国・朝鮮人）について、本当は居てほしくないが、居るから仕方なく恩恵として教育をしてやる」という姿勢であるなら、それは屈辱です。子供はすべて自然法のもと平等です。教育を受ける権利があります」と静かに話されました。

——すごい説得力ですね。

関田さん 緊迫した議論の後、オモニたちは先生方と焼き肉を食

在日外国人から学んだ 川崎市の人間愛の施策



べながら「お疲れでしょう」とねぎらう一方、切々と実情を訴えました。このあたりから、教育委員会の態度が次第に変わってききました。これがきっかけとなり、八六年に川崎市の「外国人教育基本方針」が制定されるわけです。

——それから十数年。あのよう

なことがなければ、先ごろ注目を浴びた「在日外国人代表者会議」も実現しなかったでしょうね。

関田さん 七〇年代から続いた

桜本、大島、浜町、池上地区の民族自覚のうねりがあって、今日の地道な運動につながったと思います。また八五年、青丘社職員の指

紋押なつ拒否事件で、当時の伊藤三郎・川崎市長が「法律に問題がある。川崎市は告発しません」と言明し、川崎の在日韓国・朝鮮人を大変勇気づけました。伊藤さんは「法も規則も人間愛を越えるものではない」との名言を残されました。今日までの川崎市の施策には、少なからず在日韓国・朝鮮人から学んだがゆえの精神性が影響していると思うんです。

——李仁夏さんは「青丘社をつくるにあたって、関田先生のご理解、ご尽力なくしては実現しなかった」と言っておられます。関田先生と李仁夏さんのかかわりについてお聞かせ下さい。

関田さん 李仁夏さんとお出会ったのは、神学校での恩師であった浅野順一という人を通してです。お互いが川崎市に住んでいることもあって「共同の礼拝をしましょう」との申し出があり、それ以来、大変親しくさせて頂いていました。毎年十月の第一日曜日、川崎教会と私たちの教会が一つになつて礼拝をしてきました。

——そうだったのでですか。

関田さん しかし、あるとき、川崎教会で合同礼拝中に一人の韓

国人青年が立ち上がり「なぜ、日本人は韓国人や朝鮮人を犯罪人扱いするのか」と質問しました。いつもは、和やかな雰囲気にと始まるのですが、このときはシーンとなり、日本人は心が凍ったような表情になりました。

——その青年の発言は、体験から出た言葉なのですか。

関田さん そうです。青年が桜本小五年のとき、クラスの給食費がなくなつたのです。担任の先生から「お前がやったんだろう。こういうことをするのは朝鮮人なんだ」とぬれぎぬを着せられました。突然、好きだった先生にそう言われた青年は、「こんりんざい学校なんかに来るものか」。以来学校に行かなかつたそうです。

——先生に裏切られたショック、大きかったですね（涙ぐむ）。

関田さん このことは、私にも重い問いかけになりました。その翌年、あちこちで大学紛争が起こり、七〇年にICUの学生二人に出会い「桜本教会と川崎教会は十数年一緒に合同礼拝をして『われわれは一つ』』といっているが教育差別、就職差別、結婚差別とあらゆる差別の中で、なにをもつて一

ほんねインタビュー

つというのか」と詰問されました。「現実の問題を解決する神学」が問われたのですね。

関田さん これがきっかけで、李仁夏さんも私も差別に対し奮い立つことになったと思うんです。そして「人間の尊厳を踏みにじる力に対しては、あらがう」ことを、民族の異なる二つの教会が確認し合い、一つになっていったのです。

——先生のお話から、尊厳を踏



みにじる力は、長い歴史の中で蓄積され、強制力を持つ集団や子供を教育する側にも根を張っている実感しました。

関田さん 抑圧された人たちと一緒に解放のために闘うことで、宗教が一つになれるのです。宗教の真理性を明らかにする上で一番大事なことは、教義の違いを論ずるのでなく、人間解放の場に立てるかどうかです（淡々と）。

——青丘社は、その流れの中から生まれたいですか。

関田さん そうです。もともとは教会堂を保育園に開放したことに始まりますが、在日韓国・朝鮮人が、学校や社会で本名を名乗って堂々と生きていくためのサポートも必要です。青丘社が社会福祉法人となったのは七四年ですが、保育園の子供たちのエネルギーは教会堂を傷だらけにし、長老から苦情が出たそうです（苦笑い）。

——そんな事があったのですか。

関田さん 桜本保育園の創立十周年に、伊藤市長（当時）が現場をご覧になり現状を把握され、その後「異文化に触れ合い学びあう豊かな文化センター」実現に動き出します。そして、現在の「ふれあい館」ができるのです。子供会の会長さんの反対もありましたが、なぜ反対したのですか。

関田さん ふれあい館は構想段階から、韓国・朝鮮人と日本人が

一緒に催しや学習会をやり、運営も青丘社に任せる内容です。反対した方は「いずれ、韓国・朝鮮人だけのものになり、日本人は使えなくなる」と考え、差別感情が噴き出したのです。私たちは一軒の家を訪ね、理解を求めましたが門前払いが多かったですね。

——訪問の効果はなかったと。

関田さん けれど、行政が熱心に仲介し「三年間は市が運営。実績をみて青丘社へ移管」との妥協案を示し解決しました。いま、利用者七、八割は日本人です。

——ところで、差別意識の根源はなんだとお考えですか。



あらが

尊厳踏みにじる力に抗う 人間解放の倫理と行動力

椎野 和枝さん
しいの・かずえ=1934年、京都市生まれ。同志社教育、毛利菊枝演劇研究所卒、NHK婦人学級世話人、広島女性史研究会を経て80年から川崎に住み「女性の学習情報をつなぐ会」、東洋大学特別研究会「21世紀の女性」、川崎「ぶらす1」に所属。共著は「山陽路の女たち」「テキスト現代女性読本」。麻生区白山在住。

関田さん 私は、日本社会の中にある差別は、独特な歴史的な根があると思うんです。日本が太平洋戦争で敗北したとき、大事なモラル再生のきっかけを逸した、と考えています。

——道徳や倫理の欠如が、差別やいじめの要因ですが、その根が終戦までさかのぼるのですか。

関田さん ええ。それは戦争の最高責任者である天皇が責任をとらなかつたからです。国民に謝罪をし退位なさることが、天皇の人格的徳性の裏づけになったはずです。それがあれば、戦後の日本のモラルは違っていたと思います。戦後、象徴天皇となりましたが、憲法でいう「国民」には、国籍の違う人を排除して、天皇に通じる大和民族という意識が色濃く残っています。中途半端な民主化が増

本物には感動する学生 大人より「自分に素直」

幅して「同化するか」「排除するか」になるのです。同化しても決して平等にはしない、日本人の差別の根がここにあるんです。

——モラル再生の機会を逃した延長線上に住專問題、エイズ問題、動燃再処理工場の火災事故隠しなどがあるように思います。

関田さん　そこです。革命というの、モラルを回復することです。それを経験したアジア諸国民から見ると、日本人ほど度し難い民族はないと思われてしまいます。いま、日本人はどうすればいいのでしょうか。

関田さん　差別というのは原罪的な性格のもので、差別がなくなくなることはありません。けれど「差別で人は痛み、傷つくのだ」と自覚して、それを教育の根幹に据えることは極めて大切ですよ。

——芥川賞の柳美里さんのサイン会が脅迫で中止されましたね。
関田さん　柳さんの芥川賞受賞

は、成熟していない日本人には、腹立たしいことだったと思います。あの行為は卑劣ですが、黒人と白人の関係も同じで、白人は黒人が



自分たちより下に自らを位置付けて生きていければ気持ちがいいのです。それが差別なんですね。

——「私は差別していません」という人がいます。

関田さん　部落問題や障害者問題、民族問題に、どうあらがっているかです。抵抗にかかわっていない限り「差別していません」と言い切れないのです。日本社会の構造が差別構造になっていて、そこに安住していれば、結果的に差別

に加担していることになるのです。——平等意識を持つということはどういうことでしょうか。

関田さん　「共に生きる」ということです。これは何もかも一緒になるということではなく、違いを認めあつた上で、受け入れて生きていくことだと思います。

——先生は最近の学生たちの考え方、感覚をどう感じていますか。
関田さん　本物に、きちつと反

応し感動するのは、今の学生も昔の学生も変わりません。大学の二部の学生は曲折を経て入学してきたので、私は彼らに私が中学を卒業するとき、先生から聞いた「挫折とか、失敗というのは悲しいことですが、本当に悲しいことは、そこから何も学ばないことだ」を引用した後、「今は寒々とした気持ちで、ここに通って来る人もいると思うが、その気持ちをパチン



コでこまかさず、真正面から受け止め、内側から癒えてくるまで耐えてほしい。その教訓をしっかりと自分のものにすれば、失敗は決して無駄にはならない」と話すので、涙ぐむ学生もいます……。

——若い心に染み入るんですね。
関田さん　私は有志を集めて読書会もやっていますが、二部の学生たちが大勢集まってくるんです。——どのような作品を。

関田さん　遠藤周作、三浦綾子、キルケゴール、パスカルの作品を読み話し合います。その中で、学生は自分の気持ちを素直に出し合いますので、彼らは成長するんですね。この集まりを「アドバイザーグループ」といいます。卒業した人たちのための「青竹の会」があります。これは年四回読書会をしますが、三十年も続き参加した人は三百人を超えました。

——それはすごいですね。先生はご自分の生活を「二足のわらじ」といいますが、先生の人生の中で一つに溶け合っている感じですか。今日はとても感動しました。

題字は高橋清・川崎市長

構成／富樫 恭子

文責／田中 園

小誌スタッフ応募者への テスト問題とそのネライ

〈上〉

「ステージ・アップ」編集チームのスタッフ1人を4月号で募集したところ、18人の応募があり、このうちの11人（7人はテスト辞退）に同月中旬テストを実施し、同18日に採用の可否を決めた。テストの内容は、面接問題11問とワープロによる文章力問題1問、ワープロの習熟度問題1問で、いずれも当編集チームが作成したオリジナルの問題。また「採用にあたっては、成績のよい上位3人の中から決める」ことにしていたが、結果的には1位の人の採用となった。テストの内容とそのネライ、応募者の明暗は？

採用試験は面接から行われた。面接問題は、1問10点で110点満点。なお、答はおもに応募者の回答の抜粋。

1、ステージ・アップは、どんな目的で発行していると思いますか。

答 生涯学習をしている市民への多様なメッセージ▽自分を高めるた

独創的な面接・文章力テスト

応募者18人 立ち向かう11人の女性

めの講座・講演、イベントの情報提供▽素晴らしい市民の生き方や活動の紹介▽市民の討論の場の提供。

2、「ほんねインタビュー いまを話す」は、50回を超えましたが、何回ぐらい読まれましたか。

答 (10数回が多かった)。

3、その中で印象に残るゲストは？

答 骨髄バンクの高橋真知子さん(95年4月) 環境問題の酒井博さん(95年6月) 痴呆症研究の長谷川和夫・聖マリアンナ医科大学長(96年5月)、稲毛神社宮司の市川緋佐磨さん(97年4月) など。

4、「いまを話す」を掲載しているネライは？

答 ゲストもインタビュアーも川崎市民。地域にこんな素晴らしい方がいることを伝え、コミュニティづくりに役立てる▽ゲストの体験を通し、自分がしに役立つ▽もっとも身近な生涯学習の場は家庭。家族団欒の話題提供。

5、「はりきってますグループ紹介」を掲載しているネライは？

答 気持ちを通じあう人と何かを

している元気になる。グループへの参加呼び掛け▽豊かな社会とは、市民が地域で連帯する社会。そのためには、いろいろなグループが必要。その励ましコーナー。

「出題のネライ」

1～5までは「ステージ・アップ」についての質問である。

それぞれの雑誌には明確な発行目的があり、ある読者層を念頭に置いている。小誌の読者層は、いうまでもなく、生涯学習をすでに実践しているか、今後、生涯学習に参加しようとしている市民が読者層である。

「ステージ・アップ」のスタッフを目指す人は、小誌の発行目的を理解していることが望まれる。この5間における平均点は34点(50点満点)で、生涯学習実践者が平均点を大きく上回った半面、縦社会(会社)や「個の世界」にいたいと思われる人の理解は極めて不十分であった。

これまでの日本の縦社会は、効率と利潤を追求してきたが、歴史的制約の中で評価できる部分もある。それに「至上主義」が付き、環境破壊をもたらした。「自然との共生」が否定され、大量消費が美德とされた。また、IQ(知能指数)と偏差値という物差しによってのみ、理性や倫理、その人の生涯の幸せが決まるかのような神話を生み出した。

生涯学習の特徴は、それぞれの市民が「学びあい、高めあう」横社会。それは各人の得意、不得意を尊重しあい、人間を自然の一部と考え、リサイクル社会を促進する新しいコミュニティ社会を展望する。

多くの雑誌が一過性の取材に基づくものであったが、横社会ネットワークの構築を念頭に「学びあい、高めあう」と生涯学習の理念に基づく取材は「ご縁を深める端緒」である。

◇ ◇ ◇

(次回は、面接のつづきと応募者の明暗について)

はりきってます グループ紹介

仲間と楽しむ 学ぶ 活動する 井物井物一。



主人公の心の揺れ
時代背景興味深く

小説の世界に浸る11年

小説離れが進む中、近代文学を
読み、作者の心の葛藤や時代背景
の「解読」を十年間も続けている
グループがある。「こもれび」三
浦敦子代表(58)ら三十一人。こもれび

こもれび (多摩区)

同会は毎月一回、火曜の午前、多摩市民館で例会を開いている。この日は、宮澤賢治の「氷河鼠の毛皮」ガテーマ。これは賢治が一九三三年に発表した作品。イーハトヴから北のベールリングまで、直通の夜行列車が走っている設定」と小森助教。この作品は、これまでの賢治の作品とは異なる」と続ける。賢治ファンが多いのが、固唾を飲んで聞く会員。

「二年の「かしはほやし」の夜」の主人公は、貧農で生活のため木をどんどん伐採する。人間としては当然でも、自然界から見れば犯罪」と小森助教。自然と人間の対立点が鮮明だった賢治を強調。メモを取る会員。これまでの自然の側に立つ賢治の姿勢が「氷河鼠……では甘くなつた。あの夜行列車を、満州鉄道(中国東北地方)建設の日本の北進とダブルせ、太平洋戦争突入前後の政治状況が賢治に影響を与えたことを示唆する。

それが、会員が「自分の世界が広がった」と口をそろえるほどの魅力と言えなくもない。質疑で「氷河鼠……」の最後で、青年と白熊が和解しますが、先生「だつたら？」に「議論するなあ」との答えに大喜びの拍手。

同会の発足は十一年前。多摩市民館の成人学校「樋口一葉を読む」の講師が小森助教。登場人物についての心理分析や歴史の多面的解釈の面白さに魅せられた受講者有志が同会を作った。

窪田京子さん(63)は「活字の奥に広がる世界を知り、文章の奥行きが感じられ、うれしい」。学習して、言葉を大事にするよう心掛けています。文章を正確に温かく受け止める先生の影響ね」と穴戸喜美江さん(55)。

三浦代表は「小森先生だから、というこだわりで続いている会なので『文学散歩』という名称から現在の名称へ改めたばかりです。これからもいい雰囲気を大事にしたい」と静かに話す。

連絡は多摩区生田五の二の四。(955) 1765の三浦宅。

文／小誌・井上徳子
カメラ／小誌・山本綾子

同時に、世界的視点で、アメリカにおける西部開拓史と野牛撲滅などの自然破壊とを結び付けた。ときには「本題から、はずれてしまいましたね」と同助教がいふ通り、現代史ふうの解説になる。

ワイド版

はりきってます グループ紹介

明るく元気に卓球楽しませ

リリース (麻生区)

「明るく元気に」をモットーに、軽快なフットワークでピンポン球を追いつけるのは「リリース」。伊藤紀子代表(54)の会員二十三人。毎週土曜の午前、麻生スポーツセンター小体育室で、健康とストレス解消に心地よい汗を流す。同会の「目玉」は、コーチによる一人三分間のマンツーマン指導。前半が基礎練習、後半は毎月の課題に沿った技を磨く。

この日も準備体操の後、フットワークと素振りでの慣らし、「イチ、ニ、サン」と歯切れのいい声で指導する鈴木昭子・日本体育協会公認スポーツC級指導員。会員の間を縫うように歩き、アドバイスをするのは竹下裕子・同指導員。

会員たちは十台の卓球台に分かれ、フォアクロス、ツッツキ打ちなどの基礎打ちをみっちりする。左足を踏み出し、鋭く腕を振って球を打ち返す女性。「敵しいコースを狙わないで」と注文する初心者。

マンツーマン

技伸ばす個別指導
心豊かな仲間意識



から離れ過ぎかな。ひじを体に近づけ、ラケットは親指を柔らかく持つといいですよ」とコツを伝授する男性。どの卓球台からも「ナイスコース」惜しい」と明るく声が響き、ガッツポーズも。

マンツーマンの練習。竹下、鈴木の本の両コーチは、わずかな時間の中で、会員の力量に合わせ、バックハンドで狙ったコースへの返球が響き、ガッツポーズも。

同会の発足は十年前。同センターのスポーツ教室受講者の有志でスタートした。

塚本良子さん(70)は「サーブとフットワークが私の課題。いつまでも前進したいわ」と若々しい。亀井辰夫さん(68)は「基礎を大切に、長所を生かし欠点を直すよう心掛けています」と大粒の汗谷口恵子さん(45)は「年齢にこだわらない会員に会うと気分転換になり、生活に張りが出ます」。

伊藤代表は「リリースが、技術の向上と心の豊かさが調和したみんなが輝く場所にしたいですね」。同代表宅は多摩区寺尾台二の七の二一、☎(955)0874。

文 / 小誌・山本綾子
カメラ / 小誌・井上徳子

仲間と楽しむ

学び

活動する

生き生きと

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

「ワープロ教室◆東芝科学館」6月18日(水)9時半から、入門コース▽13時半から、基本コース。1人1台のワープロで指導。教材費千円。定員各先着10人。申し込みは☎(549)2200の同館・同教室担当。川崎駅からバス。

「花・インテリア・ファッションのカラーコーディネート講座◆市国際交流センター」6月22日(日)カラーコーディネート▽7月13日(日)フラワールアレンジメント▽9月21日(日)インテリアコーディネートネット。いずれも14時から。講師は荒井陽子さん、佐藤由香さん。材料費込み9千円。申し込みは☎(556)6556の佐藤さん。エクロール(主催)。「市民健康セミナー」婦人科腫瘍の診断と治療「症状が無くても検診を受けることが重要です」◆市中小

企業・婦人会館」6月28日(土)14時から。講師は木口一成・聖マリアンナ医科大学東横病院産婦人科副部長。写真は前回。無料。定員50人。申し込みは当日。問い合わせは☎(722)2121内線521の同病院(主催)。



「手作り玩具研修会◆県立川崎青少年会館」6月18日(土)7月30日の毎週水曜19時から、全7回。子供に玩具作りを教えるための講座。対象は青少年を指導してい

市外同番のないものは044

る方。無料。定員先着20人。申し込みは☎(222)5282の同館。

「インターネット・ホームページ作成セミナー◆登戸ドレスメーカー学院」6月7日(土)14時から。ホームページの仕組みからハイパーリンク設定までについて要点をコンパクトに学ぶ。6千円。定員先着15人。申し込みは午前中に☎(911)2221の同院。向ヶ丘遊園駅下車。

「ハナショウブの鉢作り講習会◆市緑化センター」7月4日(金)13時半から。教材費7百円。定員30人(抽選)。申し込みは6月24日(火)までに往復はがき(1人1枚)に講習会名、住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区宿河原6の14の1、同センター。☎(911)2177。

「市立看護短期大学特別講演会「逆差の視点」死から生をみる」◆同大学講堂」6月7日(土)13時半から。講

師は上野正彦・元東京都監察医務院長。無料。定員3百人。問い合わせは☎(587)3502の同大学教務課。

①ピアノレッスン(春期)②「ろくろ」を楽しむ③英検2級対策講座④パソコン応用◆玉川大学」①は5・7月のうちの10回で1回50分の個人レッスン。日時は個別に調整。講師は田場由紀子、原口ひかり。同大学非常勤講師②は6月10日(土)7月11日の毎週火・金曜18時から、全10回。土練り、ろくろ操作の基礎を学び、碗、皿を作る。講師は岩村守・同大学教授③は6月10日(土)10月14日の毎週火曜と7月11日(金)7月29日(土)9月9日、23日は休み)17時半から、全12回。10月19日(日)の試験に向けた講座。講師は花信子・同大学非常勤講師④は6月18日(水)20日(金)18時から、全3回。Windowsでワード、エクセルを使いこなす。電子

メール、ホームページの検索も。講師は渋谷綾子・同大学非常勤講師。受講料は①7万円②6万円③④2万円。定員先着①④20人②15人③30人。申し込みは☎0427(39)8895の同大学継続学習センター。玉川学園駅前下車。「地域消費者問題専門講座◆県川崎消費生活センター」7月3(土)17日の毎週火曜10時から、全5回。テーマは「銀行とどうつき合うか」「デパート・ロージャール紙から何を讀みとるか」。見学会も。無料。定員先着80人。2歳以上の保育あり。申し込みは6月30日(月)までに☎(833)1231内線332の同センター。「建築と日本文化①台所・流しの歴史②日本建築の内部空間と障壁画と建築◆日本民家園」①は6月15日(日)。講師は大河直躬・千葉大名誉教授②は22日(日)。講師は西和夫・神奈川大教授。いずれも13時半から。受講

学習・文化情報

学習・文化情報

◆加したい催しがある◆



催し



料は各千円。定員各40人
(抽選)申し込みは①6月3日(火)210時(火)までに往復はがきに講座名、受講日、住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区栢形7の1の1、同園。☎(922)2181

◆「3日体操神奈川大会」◆
麻生スポーツセンター 6月19日(木)10時から受け付け
ボールなど3種類の道具を用い、音楽に合わせて体操
●写真。無料。運動できる服装、シューズで参加。初心者歓迎。問い合わせは☎

(954)6387の山口さんか☎(954)8636の加藤さん。日本3日体操協会神奈川支部主催。
―さいわいごみカレッジ◆堤根処理センター他〕7月23日(水)9時半から。同センターで瓶・缶処理施設見学、「誰が川を汚したの?」と題したワークショップなど学習編▽24日(木)8時半、川崎駅岡田屋モアーズ前集合。浮島処理センターで粗大ごみ処理場、焼却場の見学、分別ゲームなど見学編対象は市内在住・在勤の親子、小学5年以上は個人参加も可。定員50人(抽選)。費用は小学生以上300円、幼児は保険料2日で百円。申し込みは7月5日(土)までにはがきに住所、氏名、電話番号、子供の学校名・学年を記し〒211幸区古市場1の61、☎(522)5797の内藤文子さんが、〒211幸区鹿島田160、☎(522)8574の飯島智恵子さん。さいわい・住民懇談会主催。
①わくわく実験教室／カラオケコンピの秘密を知

ろう②サイエンスショー、風は力持ち◆◆芝科学館〕①は6月14日(土)10時と13時から。音、マイク、スピーカーについて実験を交えて説明。写真。定員は各25



「ふれあいバザー」◆特別養護老人ホーム緑陽苑〕6月22日(日)10時から。日用品、古本、衣料▽吹き込み御飯、おもしろい手作り屋台▽楽しい子ども広場。雨天決行。問い合わせは☎(988)5010の同苑。栗平駅下車。
「ハナショウブ展」◆市緑化センター〕6月18日(水)7月6日(日)まで。時間は9時半から。120品種を開花に応じ展示。月曜休園。問い合わせは☎(911)2177の同センター。
「かわさき市民」第九合唱団募集◆中原市民館〕8月29日から毎週金曜18時半練習開始。対象は高校生以上、家族会員は小中学生も可。費用は一般1万3千円(チケット3枚代金込み)高校生8千円(同)、小学生5千円。楽譜、練習用カセットは実費。定員250人(抽選)。希望者に有料で独語の発音練習あり。申し込みは7月22日(火)までにはがきに住所、氏名、年齢、電話番号、歌うパート、第九経験の有無、発音練習希

さらに使いこなすワープロ講座

受講生募集

- 日時——7月15日(火)～17日(木)の午前10時～午後4時
 - 会場——市教育文化会館学習室(JR川崎駅から徒歩15分、バスあり)
 - 対象／定員——市内在住・在勤・在学の方／15人(定員を超えた場合は抽選)
 - 受講料——12,000円。他に教材費1,500円
 - 使用機種——NEC PC9801DX-U
- ★申し込みは、6月20日(金)～27日(金)9～17時に☎(233)6250の川崎市生涯学習振興事業団川崎分室(月曜休み)

学習・文化情報

魅力的なイベントがある

望の有無を記し下210川崎区駅前本町12の1リパークビル3階、市文化財団「第九」係、☎(222)8821。

「市民天体観望会◆川崎授産学園」6月14日(土)19時から。月面、初夏の星座を観望。写真。雨、曇りは室内で星にまつわる童話、スライド。無料。小学生以下は要保護者。事前申し込み不要。問い合わせは☎(954)5011の同園。新百合ヶ丘駅からバス。



「Let'sお菓子作り」◆県立川崎青少年会館」6月29日(日)13時から。オーブンを使わない簡単なお菓子を作る。対象は小学生以上。参加無料、材料費は実費。定員は先着で小中学生10人、高校生以上10人。申し込みは☎(222)5282の同館。

「建物とくらし」学芸職

員のトーク集◆日本民家園」6月20日(金)「道具の歴史」縄文から現代まで。学芸員は増子章二さん▽7月18日(金)「大善寺」中世の見える風景。学芸員は三輪修三さん。いずれも時間は13時半から。無料。入園料は必要。問い合わせは☎(922)2181の同園。

「①わら細工「ぞうり」作り②親子体験教室③こども体験教室◆日本民家園」①は6月15、29日の日曜。受講料は各700円。定員各30人(抽選)②は7月13日(日)。あしながぞうり作り。受講料は1組700円。定員15組(抽選)③は6月28日(土)。作田家で竹細工。対象は小中学生。無料。定員先着10人。いずれも10時から。申し込みは①6月6日(金)まで②7月4日(金)までに往復はがきに住所、氏名、電話番号、講座名、受講日を記し下214多摩区枳形7の1の1、同園③は6月1日(日)から☎(922)2181の同園へ電話。

「韓国映画祭II◆市市民ミュージアム」6月7日(土)

「ハンネの昇天」A、「旗譜」B▽8日(日)「長雨」A、「風吹く良き日」C▽14日(土)「小さなボール」(写真)A、「馬鹿宣言」



B▽15日(日)「霧の柱」A、「黄真伊(ファン・ジン)」B▽21日(土)「赤道の花」A、「神様こんにちは」B▽22日(日)「成功時代」A、「チルスとマンス」B▽28日(土)「ソウルの虹」A、「銀馬將軍は来なかった」C▽29日(日)「トゥー・カップス」A、「セサンバクロ 外の世界へ」B▽7月5日(土)「風の丘を越えて」西便制」A、「二人の女の物語」B。上映

開始はA13時半▽B16時▽C16時半。料金は一般500円、小中学生300円、10枚つづり4千円。定員は各270人(入れ替え制)。問い合わせは☎(754)4500の同館。

「①星を見る夕べ②星の写真教室③ワクワクワーク」火山灰の世界をのぞいて見よう◆市青少年科学館」①は6月7、14日の土曜19時から。火星、月、星団を観望。雨、曇りはプラネタリウムで星の話②は7月11日(金)19時から。月を撮影。定員先着10人。一眼レフカメラボディ、フィルム、シリーズ持参③は7月13日(日)13時から。定員先着20人。いずれも無料。申し込みは①不要②6月13日(金)③7月1日(火)9時から☎(922)4731の同館。

「ミニ観察会◆生田緑地」植物観察は、6月7日(土)29日(日)13時20分、市青少年科学館に集合▽クモ観察は15日(日)9時50分、同館に集合。いずれも無料。筆記具、図鑑、ルーペ、双眼鏡持参。事前申し込み不要。植物は

スポーツ

雨天決行。問い合わせは☎(922)4731の同館。

「①レディースシェイプアップ②スポーツコーナー利用講習会◆県立川崎青少年会館」①は6月4、25日の毎週水曜19時から、全4回。手軽に出来るシェイプアップの基本を学ぶ。対象は16歳以上。いずれも無料。保険料千300円。定員先着15人。申し込みは☎(222)5282の同館。

ギャラリー

「麻生市民館ギャラリー」6月13日(金)〜18日(水)、「しゃらく麻生」写真展。自然、風景、花をモチーフにした自主グループ「しゃらく麻生」会員の力作40点。問い合わせは☎(966)9184の篠原さん。

「中村正義の美術館」7月13日(日)まで、中村正義展

学習・文化情報

心やすらぐ音楽がある

「後期・幻視、幻想の時代」正義の生涯を3期に分けた最終回。結核、直腸がんなど病魔と闘いながら既成画壇の変革を目指した作品



「仙人双相」 写真右、「水墨」、「舞妓」 写真左
 等々40点。一般500円、学生300円、小中生200円
 ☎(953) 4936 読売ランド前駅からバス。



「画廊ランブ屋」 6月13日
 日 金 22日 田木工三人三様展。西文和、石黒征一郎、伴泰幸のペーパーナイフ、花入の小品から、スツール、いすなど家具。☎(945) 4416 稲田堤駅下車。
 「ギャラリー幸」 6月4日 水まで、弥起公泉個展。

バリのお嬢さんたち、ネコなどメルヘンチックな作品
 ▼6日 金 30日 月、常設展
 ☎(555) 8181 川崎駅西口下車。

「スナック喫茶琴」 6月14日 土まで、阿部秀子の写真展。花、風景の作品▼14日 土 7月5日 土、花のちぎり絵展。日曜グループの作品。問い合わせ ☎(544) 0507 鹿島田駅下車。

「市教育文化会館」 6月29日 日 7月6日 日、かわ

ステージ



「ジャズダンス自主公演」
 「夢現ターストリー」

◆市産業振興会館「パフォー
 日 土 18時半開演。パフォー
 マンスサークルき・ん・つ
 ・は」の会員たちで企画から製作した成果を披露。無料。問い合わせ ☎050(567) 3826 のき・ん・つ・は。

「藤井香織フルトリオ
 イタリア◆花ホール」 6月14日 土 19時開演。J・S・バ



「ヴォイス」他。ピアノは

さき市民アンデパンダン。絵画、書、写真を展示。問い合わせ ☎(222) 8821 市文化財団。
 「市民ミュージアム」
 6月14日 土 8月24日 日、漫画作家・畑中純の挑戦。豊かな大地と水と人間と。「宮沢賢治、銀河へ」より「注文の多い料理店」写真、「まんだら屋の良太」など、日本の風土を色濃く反映した作風と独自の表現を切り拓いた作品50点。観覧料は一般300円、小 大



学生100円。☎(754) 4500。

ツハ「ソナタ」口短調BWV1030 ▼モーツァルト「アンダンテ」▼武満徹「ヴォイス」他。ピアノはフィリップ・モル。全自由席で一般2千500円、学生2千円。藤井香織 写真
 は、昨年、日本木管コンクールフルート部門で史上最年少第一位を受賞、将来を期待される18歳。問い合わせ ☎(812) 6090 の同ホール。溝ノ口駅下車。
 「マリンバ&パーカッショントリオコンサート」◆用賀スタジオ・キャロル」 6月29日 日 14時半開演。ピートルズメドレー▼ラグタイム他。出演は青木菊美▼田村優輝子ほか。全自由席で一般：千800円▼学生・千

会員募集



●やきもの世界研究会
 (多摩区三田4の4の5の403、石井達郎代表) 日本、朝鮮、中国など古今の陶器を鑑賞し、青柳恵介・成城短大講師の指導で教養も身につきます。お宝ブームの中、焼き物の目利きになりませんか。美術館にも行き名品に触れます。例会は毎月第2・4火曜10時から、管生分館。入会金千円、月会費2千円。連絡は ☎(922) 6163 の代表宅。
 ◆グループ各位へお願い
 会員募集の原稿をお寄せ下さい。

円▼小学生以下・500円。問い合わせ ☎03(3709) 0288 のスタジオ・キャロル。用賀駅下車。
 「花金曜寄席◆ギャラリー花」 6月6日 金 19時から 出演は林家錦平ほか。演題は 妻馬ほか。飲み物付きで 前売り千300円、当日千500円。問い合わせ ☎(812) 6090 の同所。溝ノ口駅下車。

ミニニュース



悲恋の曲しなやかに

麻生フィル演奏会

麻生フィルハーモニー管弦楽団の第25回定期演奏会が、このほど、麻生文化センターであった。土砂降りの雨にもかかわらず、ホールには8百人のファンが集まった。

チャイコフスキー「幻想

序曲「ロメオとジュリエット」は、宿命を背負った恋人たちを描いたシェイクスピアの戯曲を題材にした作品。指揮の今村能さんは、両腕をいっぱい伸ばしたり、指揮台で跳ねたり、感情表現豊かに麻生フィルの音色を引き出す。ティンパニ、金管楽器が高々と鳴り響き、ロメオとジュリエット家との戦いを描いた場面を表現。ロメオとジュリエットの悲恋の主題は、弦楽器がしなやかに流れるように奏でる。劇的で力強い音楽と品格のある優雅な音色とがホールに響き渡り、

客席から大きな拍手が送られた(Y)。

手づくり作品、完売

ひかりの家のバザー

初夏のようなゴールデンウィーク幕開けの土日、平間駅近くの民間福祉作業所「ひかりの家」(古沢妙代表)でバザーがあり、近所の主婦らがお目当ての品物を求め、朝から盛況だった。

一針一針丹精込めてぬい上げた、みっちゃんのエプロンは初日に完売。牛乳パックに和紙をはった六角形の箱を買った女性は「お見舞いで、おせんべいを入れて贈ると、おせんべいは割れないし、手作りの温かな心が伝わってうれい」と喜ばれます」と、柄遊びを楽しむ。ポランティアの人たちが作った食器洗いスポンジや割り箸入れも、主婦の知恵が生きていて人気。古沢代表は「来て下さった方々への感謝の気持ちで忘れず、これからも助け合っていくます」と、地域の温もりを喜ぶ(Y)。

編集後記

ヘルーの日本大使公邸におけるテロリストによる人質事件は、邦人全員が無事救出され、約四カ月ぶりに解決した▼武力による決着にしては犠牲者が少なく、政治生命を賭して武力突入を指令したフジモリ大統領の人質を迎えたときの笑顔が印象的だった▼日本国内の論調は、日本政府や青木大使らの危機管理能力の欠如を指摘するものが多い▼そして、五月三日の「憲法記念日」を前に事件が解決したこともあってか、自衛隊の限定的海外派遣論を説く意見が一定の説得力を持った▼しかし、これらの論調には「なぜ、ヘルーの日本大使公邸がテロリスト集団の標的にされたか」という根本問題が欠落している▼このパーティーは、天皇誕生日を祝うため、日本大使館がフジモリ大統領をはじめヘルーの要人や日本の大企業の社長ら幹部を招待して大々的に開

いた▼ヘルーと日本では治安が比較できないほどの差がある▼国内でどんなに立派なお祝いパーティーを開いてもテロリスト集団に襲われる心配は皆無だが、数年前まで、テロリストの巣だったヘルーで、派手なパーティーを開いた無神経さは何なのか▼フジモリ大統領就任以来、日本の経済援助は年々伸び、治安も以前に比べれば良くなり、日本企業も進出した▼ヘルー国民の生活水準もほんの少しづつ向上している、という▼これらの改善は、おもにフジモリ大統領に指導されるヘルー国民の努力の結果なのだが、ヘルー当局の警告を無視してまで、大パーティーを開いた背景に、援助国・日本の奢りと大国主義的意識はなかったのか▼このことは、今号「いまを話す」の関田寛雄さんの問題提起とも重なる▼さて、五月一日から小誌スタッフに、二児の母親でもある菅原純子さんが加わった▼市民、読者のいっそうのご支援を謹んでお願いする(田)。

「いまを話す」のゲストを推薦して下さい — お願い

小誌の「いまを話す」は、おもに川崎で活動されている方をゲストに迎え、その生き方や考え、活動などを聴き「人から学ぶ」人間本来の学習の在り方を提供してきました。今後も読者推薦のゲストの登場によって、内容ある生涯学習情報誌づくりに努力します。

推薦方法は●ゲストの氏名、住所、電話番号、横顔●あなたの推薦理由と住所、氏名、電話番号を記し、当事業団編集室へ封書かFAX(952)1350へお願いします。

●発行 (財)川崎市生涯学習振興事業団 〒215 川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル
電話 044(952)5000代 FAX 044(952)1350 編集人・田中 園